

## 児童学科・食物学科合同チーム 「東京家政学院大学 Child Studies & Nutrition」 『相原ふれあいフェスティバル 2022』食育ゲームの出店

### 1. 『相原ふれあいフェスティバル2022』参加の準備

令和4年10月9日（日）に『相原ふれあいフェスティバル2022』が相原中央公園で開催されることを知り、児童学科3年生4名・食物学科3年生6名で合同チーム「東京家政学院大学 Child Studies & Nutrition」を結成し、食育ブースを出店することにしました。食育内容は、小さなお子様を対象に、野菜と魚の知識を深めてもらう「野菜当てゲーム」と「魚釣りゲーム」を行うことにしました。

#### ①「野菜当てゲーム」

フェルトを土に見立て、土の下に野菜の根を埋め、葉のみ土の上に出すようにしました。葉を土から抜くと、野菜の全体が見え、野菜の種類がわかるようにしました。参加者には、葉を見て野菜の種類を当ててもらい、またその野菜を使った料理の紹介をすることにしました。「もぐら」と「みみず」も入れておき、よい土作りのために必要な生き物であることも伝えることにしました。

#### ②「魚釣りゲーム」

魚の写真を厚紙の表裏両面に貼り、厚紙が開かないようクリップで留めました。魚の内側には、魚の名前、長さ(cm)、旬の時期、その魚を使った料理や加工食品を書きました。釣り竿は割りばしで作り、釣り針には磁石を使用し、魚を留めたクリップと磁石がくっつくことで釣り上げられるようにしました。釣った魚を入れるバケツも準備しました。海洋ごみとしてペットボトルとビーチサンダルも入れておき、環境問題についても考えてもらうようにしました。



「野菜当てゲーム」の全体像



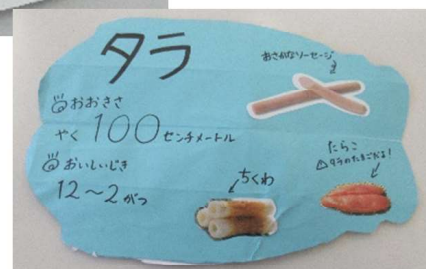
「魚釣りゲーム」の全体像



「野菜当てゲーム」の野菜



「タラ」(上)と  
「タラの紹介」(右)



## 2. 『相原ふれあいフェスティバル2022』への参加

たくさんの小学生や家族連れの皆さんが参加して下さい、休憩をとる時間もないほど大盛況でした。このブースを目当てに来て下さったご家族もいらっしゃいました。両ゲームとも、少し難しく正解しない方が多いのではないかと想像していましたが、珍しい魚の名前や、野菜の名前を当ててくれたお子様が多く驚きました。特に野菜については、小さなお子様のジャガイモやサツマイモの正解率が高く、保育園で食育の一環として、ジャガイモやサツマイモの栽培あるいは農家で収穫体験をしているのではないかと思います、改めて食育の重要性を認識しました。

参加賞として、二十日大根の種を入れた首からぶらさげる手作りポシェットを100セット準備しましたが、参加者が多く、お昼前にはなくなってしまいました。参加賞が無くなって、ゲームにチャレンジしてくれるお子様がたくさん来て下さいました。



「魚釣りゲーム」と「野菜当てゲーム」のブース

「野菜当てゲーム」の参加者と参加者に対応する学生の様子



「魚釣りゲーム」の参加者



「魚釣りゲーム」の参加者と参加者に対応する学生の様子

## 3. まとめ

今回、児童学科と食物学科の学生たちがそれぞれの専門知識を出し合い協力していく中で、いろいろなアイデアも出ていました。学科間交流および連携を通して、子どもへの食育という同じ目的に向かい、お互いの学びを深めることができる有意義な機会になりました。また、たくさんの方々とふれ合うことができ貴重な経験となりました。来年度も参加する予定です。

### プロジェクト概要

- テーマ  
『相原ふれあいフェスティバル 2022』 食育ゲームの出店
- パートナー  
『相原ふれあいフェスティバル 2022』 事務局
- 担当教員  
現代生活学部 児童学科  
准教授 中田 範子  
現代生活学部 食物学科  
教授 山田 正子  
現代生活学部 食物学科  
助手 樋口 誉誌子
- 実施期間  
令和4年10月9日(日)  
10時~16時